



急性上腸間膜動脈閉塞症における血栓の存在部位に基づいた IVR 治療戦略に関する研究

2007 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに急性上腸間膜動脈閉塞症に対する IVR 治療（カテーテル治療）を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「急性上腸間膜動脈閉塞症における血栓の存在部位に基づいた IVR 治療戦略に関する研究」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2007 年 1 月 1 日より 2024 年 12 月 31 日までに日本医科大学付属病院放射線科にて、急性上腸間膜動脈閉塞症に対する IVR 治療（カテーテル治療）を受けた患者さんの治療成績を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：急性上腸間膜動脈閉塞症における血栓の存在部位に基づいた IVR 治療戦略に関する研究

研究期間：研究実施許可日～2026 年 12 月 31 日

研究責任者：日本医科大学付属病院 放射線科 上田 達夫

(2) 研究の意義、目的について

急性上腸間膜動脈閉塞症とは、腸管の大部分を栄養している血管（上腸間膜動脈）が血栓などにより閉塞し、腸管に十分な血液が行き届かないことにより腸管が壊死してしまう病気であり、適切に治療が行われなければ、死亡率は 60～80%にも及ぶ非常に重篤な病気です。このため、可及的速やかに血栓を除去し、血管の閉塞を解除する必要がありますが、その方法としては、従来行われてきた外科的治療と、近年進歩する患者さんへの負担の少ない治療法である IVR 治療（カテーテル治療）があります。年間発症頻度は人口 10 万人あたり 8.6 人と報告される稀な疾患であることから、特に近年行われるようになった IVR 治療（カテーテル治療）による治療成績の報告は少数しかありません。本研究は、過去 18 年間に当院で行われた急性上腸間膜動脈閉塞症に対する IVR 治療（カテーテル治療）の治療成績を検討することにより、IVR 治療（カテーテル治療）の有用性と安全性を明確にすることを目的といたします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2007 年 1 月 1 日より 2024 年 12 月 31 日までに日本医科大学付属病院放射線科にて、急性上腸間膜動脈閉塞症に対して IVR 治療（カテーテル治療）を受けられた患者さんについて、以下の試料・情報を収集、使用します。

電子カルテから収集する情報：年齢、性別、既往歴、原因、発症からの時間、治療内容、合併症、転帰（腸管切除及び死亡の有無）

放射線読影レポートシステムから収集する情報：CT 画像、IVR 治療（カテーテル治療）時の画像

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「共同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 放射線科 講師 上田 達夫

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24491

メールアドレス：s9015@nms.ac.jp